

# 会員のば

## 古代人の抗生物質

旭川市医師会  
整形外科内科吉田医院

吉田 礼

科学技術の発展により、考古学の世界でさまざまな興味深いことが分かってきています。抗生物質の歴史は20世紀初頭にサルファ剤、ペニシリンが発見され使用されたことから始まりますが、実はそれよりずっと前から人類はそうした薬剤を利用してきたらしいのです。

まずはネアンデルタール人です。スペインのエルシドロン遺跡の顎に膿瘍を患った人骨から得られた歯垢のDNA解析を行ったところ、ポプラの木の成分が見つかったそうです。痛み止めとしてサリチル酸を利用したのではないかとと思われるとのこと。また同時にペニシリンを産生するpenicillium rubensのDNAも見つかったことから、抗生物質を利用していた可能性が考えられるとのこと。抗菌剤からは少し外れますが、イラクのシャニダール洞窟では重い外傷と障害を負いながら長期生き延びたと考えられる遺骨が複数見つかり、高度な医療そして高齢者や障害者を支えるコミュニティが存在したのではないかと考える研究者がいるそうです。

古代エジプトではヌビア（現在のスーダン）の人骨に、以前からテトラサイクリンで見られる骨着色が疑われていました。最近、HPLC-MSを使い分析したところ、実際に高濃度のテトラサイクリンが検出されたそうです。これはたまたまコンタミした小麦を摂取したなどとは異なる治療域に達する濃度とのこと。ヌビアの人たちが土壌中のStreptomycesをうまく利用して特別な「ビール」を醸造し治療として用いていたのではないかと考えられるそうです。

古代史の世界ではこれからさまざまな新しいことが分かってくるように思います。楽しみにしております。

## 学会釣りツアー

札幌市医師会  
手稲溪仁会病院

片山 勝之

麻酔科医として37年、50代までは若者たちと一緒に急性期医療を担う心意気で働いてきましたが、還暦を過ぎて少しギアダウンし、ここ数年は緩和医療のお手伝いをすることが多くなりました。麻酔科医の目からすると、現在のオピオイド中心の緩和治療はどうもまどろっこしいというか、神経ブロックしてあげたほうが楽でしょうという現場を多く目の当たりにし、ついつい自分の仕事を増やしてしまう毎日が続いています。

さてそんな中で、15年ほど前から海釣りにハマってしまい、公用のない週末は積丹半島の先端の余別から出漁する生活もすっかり体に染みついてしまいました。2年前には自院に釣りクラブを立ち上げて、道内遠征や職員対象のワカサギ釣り大会なども楽しんでいきます。

ここ数年は、日本麻酔科学会の釣り猛者たちが集って、出張の機会を生かした遠征も行うようになってきました。近いところでは、三浦半島から出てアコウダイ、アカムツ（ノドグロ）釣り、少し遠い九州玄界灘や壱岐沖でのヒラマサ、ブリ、カンバチ、タイ釣り、さらに足を伸ばして沖縄でのロウニンアジなどを目標にして出漁しています。釣果は、爆釣あり、坊主ありですが、某大学の教授なる役職に就いているメンバーも遠征中は全く麻酔学に関する議論は皆無で、学生時代のクラブ活動の合宿を再現しているかの如く楽しんでいきます。中には釣り道具メーカーのショールームのように高額な竿、リールを持ち込んでくる某先生が、意外に貸し釣り道具を使った先生の釣果に負けてしまったりするところが、釣りの面白いところでもあります。普段生活していると、全く意識することがないと思いますが、外洋に出ると日本は本当に釣り天国だと実感します。

学会の機会を利用して、ランニングをしたり、ゴルフや野球を楽しまれる先生たちも多いかと存じますが、ぜひ、全国に釣り仲間を増やして、学会釣りツアーも楽しんでみてはいかがでしょうか？学会に行く支度をして、妙に荷物が多く、巨大なポスターケース（実は釣り竿ケース）を抱えて新千歳空港をウロウロしている者を見つけたら、ぜひお声がけください。

PS. 当法人理事長田中繁道を会長として第69回日本病院学会を今年8月1～2日、札幌コンベンションセンターで開催いたします。面白い企画をさまざま準備していますので、ぜひご参加くださるようお願い申し上げます。